

社報

# 高縄

平成 28 年 9 月号

愛媛県松山市宮内甲 102

高縄神社社務所

風早の地方祭、河野地区では

十月七日(金曜日)；宵祭

八日(土曜日)；高縄神社例大祭

九日(日曜日)；高縄神社神幸祭

十日(月曜・祝日)；小祭(部落諸社

の祭礼)になります。

神様を「まつる」のが

「まつり」です。

地域の活力は

「まつり」から！



左の写真は今から七十年あまり前の昭和初期、**地方祭(秋祭)**前に行われた勤労奉仕のあとで、記念撮影されたものです。

虫メガネでござらん下さい。年配の方なら、「あ、うちのおばあちゃん！」

と気づかれることもあるでしょう。

皆さん若いですね。大東亜戦争が始まる前なのでモンペ姿ではありません。全員が和服で、白足袋をはいています。羽織っているのは、割烹着ではなく作務衣(さむえ)です。

当時、拝殿は茅葺きで、本殿も同じく茅葺きでした。昭和三十年代から、本殿は銅板葺きに、拝殿は鉄板葺きになりました。

僅かに写っている拝殿正面。土間には床板が張り渡されています。

昔は秋祭(地方祭)の期間、土間を床張りにし、戸を取り払って、広々としたところに大勢が参列し祭典が行われました。夜になると、そこで獅子舞の奉納があり、終わってから全ての明かりが消されて、静寂と浄闇の中、おごそかに移御(おみたまうつし)が行われたのでした。

翌日、いよいよ神幸祭。若者たちが賑やかに神輿(みこし)を曳き、総代たちは威儀を正して幡(はた)や毛槍や薙刀をもち、神職は馬に乗り、巫女は人力車に乗って、各御旅所めぐりの供奉(ぐぶ)をしたもので、地方祭の想い出は金木犀のかおりと共にあり、その日々は普段と異なる時と空気が流れていたような……。

(以上は昔話。今のことは次頁から)

今年の秋祭（地方祭）について。

八月二十日、高縄神社責任役員会・総代会・協議員会を開催し、例大祭齋行計画・例祭費収支予算の策定と編成が可決成立しました。

収入<単位；円>

| 科目    | 予算額       |
|-------|-----------|
| 1.繰越金 | 93,146    |
| 2.奉納金 | 1,510,400 |
| 3.雑収入 | 200       |
| 収入合計  | 1,603,746 |

支出<単位；円>

| 科目     | 予算額       |
|--------|-----------|
| 1.祭典費  | 200,000   |
| 2.神幸費  | 548,000   |
| 3.祝儀   | 20,000    |
| 4.補助金  | 186,000   |
| 5.事務費  | 33,000    |
| 6.会議費  | 110,000   |
| 7.報酬   | 169,000   |
| 8.補償費  | 70,000    |
| 9.雑費   | 40,000    |
| 10.積立金 | 100,000   |
| 11.予備費 | 127,746   |
| 支出合計   | 1,603,746 |

これを承けて九月五日、河野地方祭実行委員会が開かれ、警察・区長・檀尻会・学校など関係機関の各々代表者が高縄神社に参集し、協議・懇談して、いよいよ今年の取り組みがスタートしました。祭事日程は、次のとおり。

【例祭】十月八日 午後二時 始式

祭員は、官司・禰宜・助務・巫女、参列員は、総代・協議員・来賓・関係者です。始式の前に全員が順番に手水し、列になり参進して舞殿で祓を修し更に参進。舞殿に参入し着席して開式太鼓。所定の式次第で祭典を齋行。終わりに官司挨拶社頭講話、退下して直会という運びになります。

【移御（いぎよ）神事】十月八日 午後八時から  
浄闇の中、本殿の内陣を開扉し、霊代（みたましろ）を神輿（みこし）と御羽車（おはぐるま）に御移しします。

【神幸祭】十月九日 午前六時三十分から

官出しは午前七時。獅子舞があり、神輿（みこし）と御羽車（おはぐるま）が発出し、境内から石段を降って、出迎えの檀尻とともに馬場でお遷（ね）りをします。それから

渡御（とぎよ）です。大神輿は人の肩から肩へ部落渡し。御羽車と祭員・供奉（ぐんぶ）員は、自動車の隊列で移動します。

御旅所祭典は6カ所を予定しています。夫々の地元の皆様、御旅所に迎えた氏神様に、御参りになってください。

官入りの前には午後四時半過ぎから、馬場でのお遷りがあります。獅子舞があり、鼓隊パレードもあつて、賑やかです。

もう一度、ぜひともご参拝ください。おまつりに関われば、なにか必ず、いいことがあります！

《ことばの解説》

お遷（ね）りとは、「遷る」の名詞形に尊称「お」をつけたものです。遷という字は難しいので、練の字が一般的に用いられます。

神輿は訓読みで「みこし」、音読みは「しんよ」です。輿は肩で舁（か）く乗物。舁棒上に座するのが輿で、座が下にあるのを駕籠（かご）といいます。神様に乗っていただくのが神輿で、高縄神社には、今は神輿が一体しかありません。

御羽車（おはぐるま）は、腰輿（ようよ）とも手輿（てごし）ともいいます。高縄神社の神幸祭は、今は一廻体が神輿で二廻体・三廻体は御羽車で渡御します。

庚申車（こうしんぐるま）は、先導の小さい御羽車のこと。先導の主幸神である猿田彦大神の神名と道教の庚申（かのえさる）が習合し、そう呼ばれるようになりました。

平成28年10月9日  
高縄神社神幸祭 日程

|                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 6:30<br>~7:00   | 発輿・官出               |
| 7:00<br>~8:00   | 馬場お遷り               |
| 8:00<br>~9:00   | 宮内→別府→府中<br>→柳原     |
| 9:00<br>~9:30   | 御旅所祭典 1<br>(柳原)     |
| 10:30<br>~10:50 | 柳原→府中→片山            |
| 10:50<br>~11:20 | 御旅所祭典 2<br>(片山)     |
| 11:20<br>~11:30 | 片山→中須賀→中<br>須賀団地    |
| 11:30<br>~12:00 | 御旅所祭典 3<br>(中須賀団地)  |
| 12:00<br>~13:00 | 中須賀団地→夏目<br>→常保免→佐古 |
| 13:00<br>~13:30 | 御旅所祭典 4<br>(佐古)     |
| 13:30<br>~14:10 | 佐古→善応寺→高<br>山→善応寺   |
| 14:10<br>~14:40 | 御旅所祭典 5<br>(善応寺)    |
| 15:20<br>~16:00 | 善応寺→横谷→善<br>応寺→別府   |
| 16:00<br>~16:30 | 御旅所祭典 6<br>(別府)     |
| 16:30<br>~16:40 | 別府→宮内               |
| 16:40<br>~18:00 | 馬場お遷り               |
| 18:00<br>~18:30 | 宮入<br>還幸祭           |

## 「氏子からの寄稿」

前号から始まった寄稿欄。本号は、氏子の代表である総代会の副会長みずからによる寄稿です。

## 高縄神社の一年と六カ月

—総代会副会長 濱屋盛孝—

◇玉井宮司、正岡禰宜、七名の総代と十六名の協議員で組織され、高縄神社は運営されている。年間行事は、「春まつり」「夏まつり」「夏越祭」「秋まつり」「新嘗祭」「年末年始諸祭儀」「紀元祭」等が主な行事。

平成二十七年四月一日、任期満了による交代が行なわれ現在の人員構成となっている。神社規則等へのつとり作法を重んじ慣例を大切に組織が一丸となり滞りのない使命の達成に取り組んでいる。

氏子皆様の多大なるご理解とご協力で良好な進展ができていることを厚くお礼申し上げる次第です。

◇全国神社総代会発刊の『神社総代必携』と称する小冊子が当神社全総代に貸与されています。組織全体が知識・教養を高め、神社の適正な運営に寄与することが責務であります、といった教えの内容であります。紙面の都合で、巻頭の「綱領」についてご紹介いたします。

### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮

し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きま

ことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともち

として世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌

と世界の共存共栄とを祈ること

以上であります。

(寄稿、ありがとうございました)

## 「温故知新」

### 石文めぐり(その3)

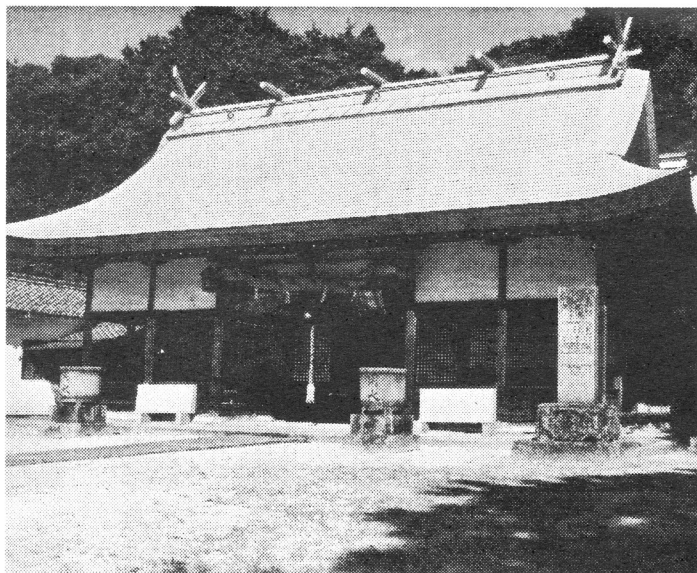
前々頁に掲載した昭和初期の写真で、女性たちの列、右端後に写っている用水桶は、今のとちがっていますね。



これは、鉄の鋳物で造られていました。その後、大東亜戦争の金属供出で撤去。戦後になってセメントで作り返されています。

台座の石には「願主」として、当時の神職四人の名前(南)と総代四人の名前(北)が、それぞれ彫

られています。裏面には、「明治卅年七月吉日」と彫られており、その台座に乗っているのがセメントで作られた用水桶で「昭和三十年七月吉日」と記されており、その間歲月五十八年。二つの石文が時の流れを語っています。



長方形の石が、拜殿の左右に立てかけられています。これは、寄付者の名前を記したもので、右(南)のが「日御繩懸石立奉主諸名」、左(北)のが「葛石礎奉主諸名」です。日御繩懸石立とは、前号(7月号)で紹介した注連石のことで、葛石礎は拜殿軒下にめぐらされた敷石のことでしょう。

日清戦争記念の石碑が、用水桶に並ぶように立っています。標題は隷書で「征清軍記念碑」と彫られ、その下には、河野村(当神社の氏子)から出征した



兵士たち二十四人の名前が表示されて、その裏面には

「前面所列記廿四人明治征清役實從軍者也  
河野村戸口固多然出丁壯不少皆能忠烈義  
勇不辱其職是不悖諸君顯名亦父老子弟光  
榮也矣立碑者赤十字社員某 莊内犬塚又  
丘因請記併書明治三十二年一月」

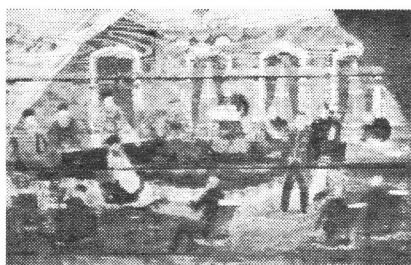
と記されています。

### 絵馬がたり (その3)

前述記念碑石文で紹介した日清戦争に関連する絵馬が舞殿にあります。

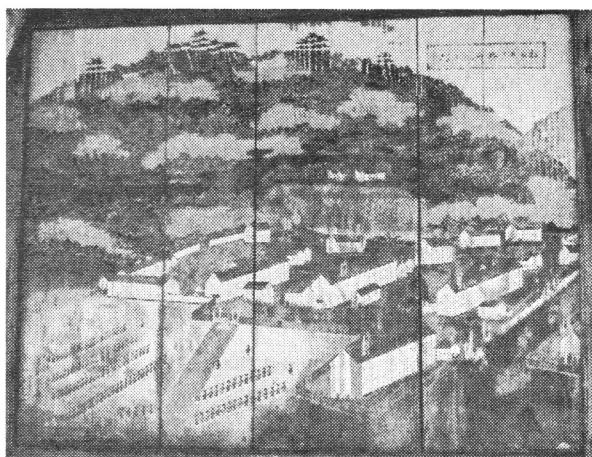
**下関条約締結の図**です。これは明治二十八年四月、清国の講和全權大使李鴻章と日本の全權大使伊藤博文・陸奥宗光が下関春帆楼で条約締結をしたときの様子を描いたもので、洋服姿が日本側です。

本誌前々号(4月号)で述べた通り、この戦勝を祝った明治二十八年四月には、高縄神社の県社昇格奉祝大祭が行われ、二重の歓びに沸きました。



この時代の絵馬は、もう一点あります。それは、

松山兵營勝山城を望むと題する絵馬です。



ごらん下さい。見覚えのある景色ですね。遠景は松山城。堀内には当時、陸軍歩兵第二十二連隊の兵営がありました。

同じ図柄の絵馬は、方々の神社でもよく見かけます。いずれも明治三十年代に奉納されており、日清戦争後の時代背景と関係がありそうです。

**十万の常備軍あり国の春—正岡子規—**  
ずいぶん樂觀的な句です。子規は明治二十六年、新聞記者として従軍の予定でした。

しかるに戦争には勝つたものの現実はきびしく、三国干渉の理不尽に臥薪嘗胆。堪え難きを堪え忍び難きを忍び国民一丸となって富国強兵に邁進するようになったのが、この絵馬が奉納された頃です。額縁の文字は「明治参拾四年拾月吉日」で、十一人の発起人が名を連ねています。

その松山二十二連隊を描いた絵馬の左は南面で、直角に隣接するかたちで大型の絵馬が掲げられています。画面は左から武士が矢を射放ち、標的には女の顔と狐。烏帽子の男が鍋蓋みたいなのを構えているという、おどろおどろしい構図ですね。これは**金毛九尾の狐**の話を描にしたものです。



(以下、次号)

△編集後記▽

◆前号は善応寺・横谷・牛谷・河野高山の区域から匿名希望で寄稿をいただきました◆本号は片山・佐古・常保免・夏目からで、総代さんが書いて下さいました◆次号は柳原の番です◆石文と絵馬は面白くなるどころで紙面が尽きました◆いよいよ秋祭です